

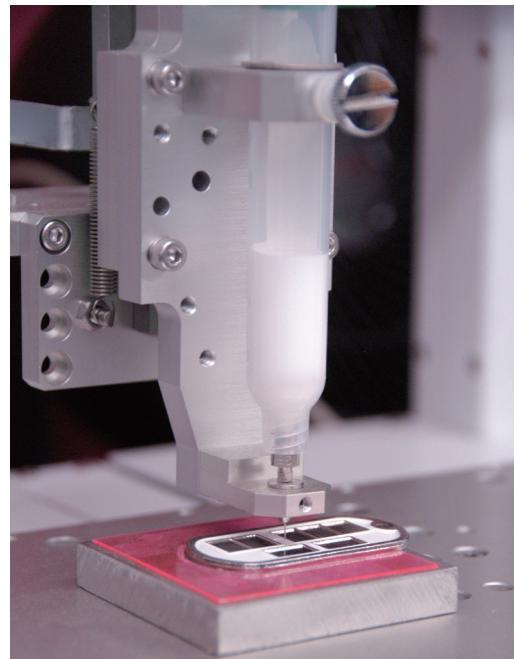
## 細部まで正確に自動注入

**ダイヤ工芸（八潮市）**

**ディスプレイペンサー導入により高精度・効率化の達成と競争力の強化**

校章、社章といったバッジやメダル、キーホルダー類など金属・プラスチック製品の色差しやコーティングを主業務とするダイヤ工芸。このうち色差しは、細い溝で区切ったバッジなどの表面に注射器で塗料を注入し色を付ける。細かな手作業のため、こなせる仕事の量は限られる。

2016年9月に導入したディスプレイペンサーは、卓上型のロボット（コントローラー）とコン



ディスプレイペンサーで細かな部分に白色の塗料を入れる

レッサーを組み合わせたユニット。ロボット部分に塗料を入れた注射器を装着すれば、プログラム通りに定量の塗料を自動供給する。小さなバッジでも正確に彩色でき、業務も効率化できる。

手作業ではなかなか難しい、職人泣かせの精巧な色差しもお手の物。ディスプレイペンサーを導入したおかげで、従来は難しかった細かい仕事も請け負えるようになった。今では色差しの約40%はディスプレイペンサーで作業している。

ただし、鋭の機器も、いったんセットすれば、あとは全自動で作業できる。約40%はディスプレイペンサーで作業している。

動というわけではない。塗料は時間がたつにつれて粘度が増すため、数をこなすうちに塗りにむらが出ないように濃度の調整が必要になる。

また、色差しするバッジは土台に固定してから作業をする。円形のバッジなどは少しの振動で回ってしまい、色差しのポイントがずれることも。透明感のある色もブレが大きく調整が難しかったため、手作業の方が

向いている。

大森繁幸専務は「やはり熟練した手作業でないとできない仕事もあり、仕分けをきちんとした上で、機械の習熟度を上げながら上手に使っていく」と語る。

海外との価格競争は厳しいが、小ロットなら注文は着実にあるという。生産性を上げるため2台目、3台目の導入も検討する考えだ。

### 【有限会社ダイヤ工芸】

■本社 八潮市西袋975

■代表者 代表取締役 大森靖弘

■設立 1968年5月

■資本金 300万円

■従業員数 9人

■電話番号 048(967)7587

「メモ」 バッジやメダルの色差し、コーティングのほか、女性靴のヒールやアクセサリ小物などの細かな塗装も行っている。

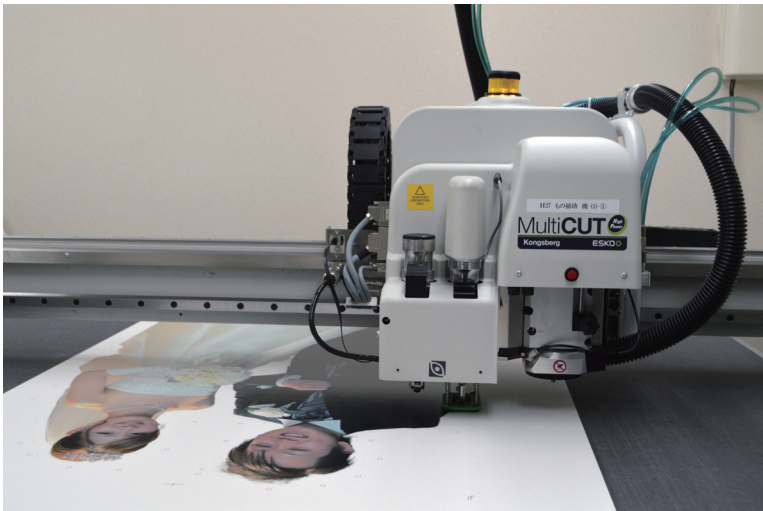
## 厚く大きな素材も自在に加工

**パック（さいたま市桜区）**

**POPの構造デザイン・企画力を武器にした新規顧客層へサービス展開の強化**

パックは紙製の宣伝材料であるPOPや化粧箱などを製作する専門メーカー。今回厚さ15ミリまでの素材に印刷できる印刷機と、材料を凹状にくり抜くこともできるサンプルカッターを導入。持ち前の企画・デザイン力に新兵器が加わったことで、より多彩な製品を製作できるようになった。

印刷機では厚紙以外にもコルクボード、アクリル板、石板などに直接印刷をすることができ、名刺サイズの小さいものから、等身大パネルのような大きなものまで対応可能だ。デザインをPDFな



サンプルカッターで等身大パネルを人の形状にカットすることも可能

どのデータで持ち込めば、小ロットのオリジナル印刷物を製作することもできる。

サンプルカッターは、本体に装備されたレンズで、素材に印刷

された目印を検出してカットする場所を検出する方式なので、テーブル上のどの位置に素材をセットしても正確にカットしてくれる。テーブルをハミ出すような大きなサイズのものも、素材を反転させたりしてカットすることができる。また切斷せずにくり抜いたり折り目を付ける加工も可能で、厚紙を立体的に仕上げるような

製品にも対応できる。

こうした自在な加工スキルを武器に、結婚式場などに営業を展開。ウェルカムボード、引出物、披露宴のネームプレートなどへの応用を提案している。

さらに商品の化粧箱や宣伝等の大ロットの製品から、看板や飲食店のオリジナルコースターなど二点物の製品も視野に入れ、幅広い展開を図っている。

### 【株式会社パック】

■本社 さいたま市桜区中島1の38の2

■代表者 岡部光則

■設立 1987年3月

■資本金 2000万円

■従業員数 8人

■電話番号 048(853)3776

「メモ」 POP、ディスプレイの企画製作、厚紙印刷を得意とする。今年創業30周年を迎えた。